



北海道教育研究所連盟第15次共同研究（平成26年度～28年度）概要 実践的指導力の向上に係る支援の在り方

ねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する指導資料や講師情報を共有するとともに、各教育研究所・研修センターが実施する教員研修の充実を図ることで、教員の実践的指導力の向上に資する。

研究内容 1

「授業改善」及び授業改善を促す「校内研修」支援の在り方

(1) 授業改善のための支援

ア 指導と評価の一体化の促進

- ・目標の実現状況を判断する適切な評価規準を設定した授業実践の共有

イ 思考力を育む授業づくりの促進

- ・教科の目標の実現を図る言語活動の充実を設定した授業実践の共有

ウ カリキュラム改善の視点を踏まえた授業づくりの促進

- ・学校教育目標の具現化を踏まえた教科指導の推進、系統性や教科相互の関連を踏まえた実践等の共有

(2) 校内研修活性化に向けた支援

ア 目的やねらいを踏まえた研究の促進

- ・課題の洗い出しから研究のまとめまで、一連の研究の進め方についての理解とその推進等の在り方の共有

イ 協働的な校内研修体制構築の促進

- ・ワークショップ型研修など、全教職員で校内研修に取り組む体制づくりの在り方に係る実践事例等の収集、普及・還元

研究内容 2

地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方

○ 教員研修の充実に関する支援

ア 専門性の向上に資する講師情報の共有促進

- ・研修内容別の講師及び活用が可能な関係機関の一覧作成

イ 教員のライフステージに応じた研修の促進

- ・各加盟機関で実施している教員研修の内容及びプログラムの共有

ウ 研修講座の実施、運営の充実促進

- ・研修準備、開催要項・講師依頼状の作成、効果的な進行等の運営の在り方の共有

第15次共同研究推進計画

平成26年度 < 1 年次 >	○研究の推進に係る実践事例の収集 ○教員研修に係る実態調査 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○夏季所員研修会における情報共有	石狩大会 （兼 全教連研究協議会） 平成26年 9 月25日・26日
平成27年度 < 2 年次 >	○研究の推進に係る実践事例の収集 ○研究の普及・還元に係る資料の作成 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○渡島大会における研究発表や協議 ○夏季所員研修会における情報共有	渡島大会 平成27年 9 月 3 日・4 日
平成28年度 < 3 年次 >	○実践事例集の発行及び研究の普及・還元に係る資料作成 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○留萌大会における研究発表や協議 ○Web ページによる資料提供や情報共有	留萌大会 平成28年 9 月 1 日・2 日

2 年次の取組と今後の方向性

- 共同研究推進委員会で教員研修に係るアンケート結果の分析を行い、成果と課題を明確にするとともに、改善の視点に関連した実践事例を収集しました。
- 教員研修に係る実態調査の報告書を作成するとともに、研究内容の普及・還元に係る実践事例集の発行を行います。

平成27年度第70回北海道教育研究所連盟研究発表大会(渡島大会)

兼第57回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

平成27年9月3日、4日にロワジュールホテル函館を会場に全道から100名の所員・研究員等が参加し、平成27年度第70回北海道教育研究所連盟研究発表大会兼第57回北海道教育研究所連盟研究発表大会を開催しました。

1日目は第15次共同研究の説明と記念講演、2日目は3部会に分かれ研究発表・研究協議を行いました。

■大会日程について

【1日目】9月3日(木)

〈午後〉

〔全体発表〕

- ・共同研究推進委員の紹介
- ・第15次共同研究(2年次目)の説明

〔記念講演〕

演題:「新しい時代にふさわしい教育課程と教育研究所・研修センターの在り方」

講師: 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 大杉 昭英 氏

【2日目】9月4日(金)

〈午前〉

- ・部会(研究発表・研究協議)

第15次共同研究の説明



共同研究推進委員

岩本 宜之 委員長

部会の様子



■記念講演(大会1日目)

演題 「新しい時代にふさわしい教育課程と教育研究所・研修センターの在り方」

講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 大杉 昭英 氏

〔概要〕

- ・高大接続改革は、大学教育及び高校以下の教育を一体的に改革するものである。そのためには、小・中・高等学校の学習指導要領を「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」をはじめ、主体性・多様性・協働性からなる真の学力を身に付けさせる方向に改善することが重要である。
- ・今後は、コンピテンシーをキーワードとし、「何を教えるか」から「何を身に付けるか」という内容重視から能力重視への流れや、課題解決に向けた主体的・協働的な学びであるアクティブ・ラーニングに関する学習活動を重視する必要がある。
- ・各教育研究所・研修センターにおいては、研修講座等の改善の具体的な方法として、「研修指導者の育成」「ミドルリーダーや研修リーダーの育成」「メンター方式の研修の推進」について取り組んでほしい。また、「講義形式の研修から、より主体的・協働的な学びの要素を含んだアクティブ研修への転換」や「新たな教育課題に対応した研修プログラムの開発」についても取り組んでほしい。



「新しい時代にふさわしい教育課程と教育研究所・研修センターの在り方」
(国立教育政策研究所初等中等教育部長 大杉昭英氏)



会場: ロワジュールホテル函館

■分科会（大会2日目）

2日目は、「授業改善」「校内研究の活性化」「教員研修の充実」の3部会に分かれ、部会ごとに研究発表と各教育研究所・研修センターの取組についての交流、テーマに基づいた協議を行いました。

第1部会

「授業改善に向けた取組」

【研究発表1の概要】 日高教育研究所 平本 哲也 所員

「思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業づくり」

- 各学校で思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業改善を進めるために、「問題解決的な学習過程」「評価規準の明確化」「言語活動の工夫」の3つのテーマについて研究を行い、その成果を発信してきた。

【研究発表2の概要】 留萌管内教育研究所 豊崎 東洋 研究部長

「活用力を向上させる学習指導の実践的研究」

- 活用力を育成するための授業改善についての理解を深めるため、所員の所属校で「活用力を図るための指導計画の工夫」「考え、表現する場の工夫」をテーマに公開授業を行った。

（協議から）

- 教育研究所・研修センターの広報紙は、平易な言葉を用い、写真やコラムを掲載しながら、分かりやすく活用しやすい紙面にする工夫が必要である。
- 教育研究所・研修センターの研究内容を各学校に活用してもらうため、学校のニーズを踏まえた研究を推進していく必要がある。

（助言から） 助言者：胆振教育研究所 安宅 錦也 所長

- 今日、主体的・協働的な学習の推進やカリキュラム・マネジメントの取組等が求められていることから、各学校と教育研究所・研修センターが連携して、これらも視野に入れた校内研修の活性化に向けた取組を進めることが大切である。



【研究発表の様子】

第2部会

「校内研究の活性化に関わる取組」

【研究発表1の概要】 後志教育研修センター 金本 真一 所員

「授業力の向上と校内研究の活性化に関わる支援の在り方」

- 各学校の校内研修を支援するため、経験年数の異なる教員がチームを組み、授業研究を通して指導力の向上を図るとともに、各学校の授業づくりの参考となる「学習指導モデル」の提案を行ってきた。

【研究発表2の概要】 苫小牧市教育研究所 桔梗原 憲 所員

「指導と評価の一体化」

- 域内の小・中学校で、「指導と評価」に関する実態調査を実施するとともに、その分析結果に基づき、指導と評価の一体化に関わる指導資料を作成してきた。

（協議から）

- 教育研究所・研修センターは、学校の求めに応じて校内研修に係る情報提供を行うだけでなく、各学校の校内研修の取組状況や課題等について把握しておく必要がある。
- ワークショップ型の研修手法など、校内研修が活性化する方法等を積極的に情報提供することが大切である。

（助言から） 助言者：檜山教育研究所 大島 藤和 所長

- 今後ますます、メンターチームを活用した若手教員の育成やミドルリーダーの力量向上を図る取組が重要になることから、各教育研究所・研修センターは、それぞれの実状を踏まえた工夫が必要である。
- 教育研究所・研修センターでは、アンケートを実施・分析するなどして、学校や教員が抱える課題を的確に把握し、必要な情報をタイムリーに提供することが大切である。



【シェアリングの様子】

第3部会

「教員研修の充実にに向けた取組」

【研究発表1の概要】 空知教育センター 土井 浩敬 所員

「教員研修の充実にに向けた取組」

- 教員の資質能力向上を図るため、研究協力員の授業公開を通して、教育センターの研究課題『『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方』について実践的検証を行い、その成果を発信してきた。

【研究発表2の概要】 函館市南北海道教育センター 若林 慎也 指導主事

「豊かな学びの中で『確かな学び』を実現する取組の改善・充実」

- 教員の指導力向上を図るため、「授業改善」「特別支援教育」「学年・学級経営」「今日的な課題への対応」に重点を置いた研修講座や協議会、講演会を開催してきた。

（協議から）

- 研修講座への参加を促すため、長期休業中に講座を開設したり、所員が学校を訪問して講座を実施したりするなどの工夫が必要である。
- 予算や所員の人数が限られている中、大学など他の研究機関や企業等と連携を図ることが必要である。

（助言から） 助言者：石狩教育研修センター 柴口 史子 所長

- 教員の資質能力の向上に向けて、教員が抱えている課題等を把握し、ニーズに応じた研修を行うことが重要である。
- ライフステージに応じた研修講座を実施する際には、講座のねらいに合った講師の選定をする必要がある。



【協議の様子】

所長研修会

平成27年4月24日（金） 会場：北海道立教育研究所

○講演 「教育研究所・研修センター長に期待すること」 旭川市教育委員会委員長 金丸 浩一氏
○協議 「これからの道研連の在り方」

【講演の概要】

- ・道内の教員には、「アクティブ・ラーニングなどの新たな学びを展開できる実践的指導力」を身に付けることが必要であることから、教育研究所・研修センターにおいては、研修会を開催したり、指導資料を作成したりするなどの取組を充実してほしい。
- ・これからの教員に求められる資質能力は、①教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、②専門職としての高度な知識・技能、③総合的な人間力に整理される。
- ・新しい教育課程や教育制度などの教育改革が急速に進んでいるが、学校現場の取組は遅れがちであることから、教育研究所・研修センターからの積極的な働き掛けを行う必要がある。



金丸 浩一氏の講演の様子

【協議の概要】

これからの道研連の在り方についての意見の交流

- ・共同研究推進委員会の活動内容が道研連の各加盟機関に十分周知されていない状況があることから、道研連WEBページ等により広報活動を充実させる必要がある。
- ・各教育研究所・研修センターによる学校支援については、学校の現状や抱える課題等を十分把握した上で対応することが大切である。

夏季所員研修会

平成27年7月30日（木）・31日（金） 会場：北海道立教育研究所

○実践発表 「校内研究推進に係る支援の在り方について」 登別市立幌別小学校教諭 澁谷 史樹丸
○協議・演習 「校内研究における支援の在り方」「特別支援教育」「ICTの活用」

【2日間の内容】

1日目は、「国及び北海道教育の今日的な課題を踏まえた教育研究所・研修センターの在り方について」と題した講義を行うとともに、「学校力向上に関する総合実践事業」指定校による「校内研究推進に係る支援の在り方について」と題した実践発表を行った。

2日目は、「校内研究支援」「特別支援教育」等について講義・演習を行うとともに、2日間のまとめとして、「各教育研究所・研修センターの取組の充実や課題解決の方策」についてグループ協議を行った。



校内研究支援についての演習の様子

【参加者の声】

- ・キャリアステージに応じて教員に求められる能力や教育研究所・研修センターとしての取組の成果や課題を再確認することができた。
- ・他の地域での実践内容や所員の方々との交流で気付いたことを、今後の業務の中で生かしていきたい。

平成28年度事業計画

- | | | |
|----------------|------------------------|-----------|
| 1 総会・所長研修会 | （平成28年4月22日（金）） | 北海道立教育研究所 |
| 2 夏季所員研修会 | （平成28年7月26日（木）、27日（金）） | 北海道立教育研究所 |
| 3 研究発表大会（留萌大会） | （平成28年9月1日（木）、2日（金）） | 留萌市中央公民館 |
| 4 委員会 | （平成29年2月10日（金）） | 北海道立教育研究所 |

発行 北海道教育研究所連盟

事務局：〒069-0834

江別市文京台東町42番地 北海道立教育研究所内
TEL 011-386-4513 / FAX 011-386-4988
URL <http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/>
E-mail dokenren@hokkaido-c.ed.jp